

令和 7 年度

事業名 世羅町公共下水道事業

地区名 世羅郡世羅町大字本郷

工事名 栄町地区下水道管新設工事（6 工区）

特 記 仕 様 書  
（管路施設）

世 羅 町

## 第1章 総 則

### 1-1 工事概要

本工事は、広島県世羅町にて事業施工中の世羅町公共下水道及び特定環境保全公共下水道事業の内、**栄町地区下水道管新設工事（6工区）**であり、添付図面（施設平面図）に示す区間を施工する。

#### 工事概要

別紙仕様書のとおり

### 1-2 工事名称

**栄町地区下水道管新設工事（6工区）**

### 1-3 工事数量

別紙数量表による。

## 第2章 工 事

### 2-1 工事施工指針

#### (1) 仕様指針

受注者は、本特記仕様に定めるもののほか、次に挙げる仕様書等を厳守し、世羅町監督員の指揮のもと設計図書に基づき施工すること。

- 1) 世羅町建設工事請負契約書
- 2) 下水道土木工事共通仕様書
- 3) 広島県土木工事共通仕様書

尚、本仕様書ならびに設計図書に明示のない事項であっても工事完成上、当然必要なものは異議なく施工すること。

#### (2) 関係法規及び責務事項

本工事にあたって受注者は、諸官公庁の命令、指示事項、地元関連者との既協定事項などを充分遵守し、違反してはならない。

また受注者は、建設業法、労働基準法、職業安定法、道路交通法、労働安全衛生規制などを遵守すること。

#### (3) 承認、指示、諸手続

- 1) 本仕様書における承認は、すべて文書によるものとし、指示は原則として指示書により行い、協議は文書又は口頭により行うものとする。
- 2) 本工事にあたって、施工上必要な一切の諸法規上の手続きは、受注者の責任において遅延なく行い、監督員に報告すること。

### 2-2 作業用地

本工事に必要な仮設用地は、世羅町が一定の許可条件のもとに供与する公有地及び借用地以外は、受注者の責任と負担により準備すること。

受注者は、借地について地主、付近住民より苦情なきように努める共に、後日において苦情の因を残してはならない。

用地の借地、又補償を行った場合は、その都度監督員の承認を得ると共に、同意書、領収書などの書類の写しを工事竣工時に監督員に提出すること。

### 2-3 仮設

土留工及び水替工は労働安全規則等関係法規を遵守し、施工計画書を監督員に提出して承諾を得た後、施工するものとする。

#### 2-4 施工計画書

- (1) 受注者は、工事着手に先立ち、施工計画書を作成し、監督員に提出すること。
- (2) 施工方法等の決定に当っては、工事の安全かつ円滑な施工の確保と公害防止に留意すること。
- (3) 施工計画を定めるに当っては、施工現場の地質状況、埋設物の位置、その規模、交通状況、及び家屋の密集度等現場の施工環境に十分留意すること。
- (4) 施工計画の内容について、監督員が「再検討」を指示した場合は、その内容について再度検討のうえ提出すること。
- (5) 受注者は、監督員に提出した施工計画書に従って工事を施工すること。
- (6) 施工計画書は、一括して提出すること。ただし、やむをえない理由により監督員の承諾を得た場合は、これを分割して提出することが出来る。
- (7) 施工計画書記載の内容を変更するときは、当該事項の施工前に監督員に申し出て新たに変更した施工計画書を提出すること。

#### 2-5 実施細部工程表の提出

- (1) 受注者は、請負契約書に基づいて提出した工程表により、実施細部工程表を作成し、監督員の承認を得ること。
- (2) 前項の実施細部工程表に変更が生じ、その内容が重要な変更の場合には、その都度、変更実施細部工程表を監督員に提出し、承認を得ること。

#### 2-6 監督職員の職務

監督員は、受注者より提出された施工計画書、詳細図の承諾、施工状況検査などを行うものとする。

#### 2-7 監督職員の立会

- (1) 受注者は、工事着手に先立ち、監督員及び関係官公署職員の現地立ち会いを受け、工法、掘削位置、交通保安設備等に関係する許可条件指示事項等を確認すること。
- (2) 既存の構造物、埋設物を撤去し、または、取り壊す場合は、あらかじめ監督員及びその管理者の立会を求め、現況の写真撮影測量等の記録を行うとともに、その指示に従うこと。
- (3) 受注者は、材料検査、応急処置の実施等、必要に応じ監督員の立会を求めること。

#### 2-8 工事写真等の整備

施工前、工事中及び、完成写真については、「下水道土木工事必携 写真管理基準」「広島県土木共通仕様書」「世羅町公共下水道事業 工事管理等基準」により整備し、1部提出すること。

#### 2-9 材 料

##### (1) 材料の調達

本工事に使用する材料は、すべて受注者の調達とする。  
世羅町は材料の支給はしない。

##### (2) 材料規定

工事材料の調達規定は、広島県土木工事共通仕様書による。

##### (3) 特殊材料

人孔材料などの J I S、J S W A S 等の規定がない製品については、品質証明書等を加えること。

##### (4) 材料の検査

下記の材料については、規格品質等を明記した資料を添付して、事前に監督員の承諾を受けたうえで調達すること。

- ・二次製品 1 式
- ・その他監督員が必要と認めたもの。

#### 2-10 地元説明会等

- (1) 受注者は、工事施工前及び、工事中、必要の都度「地元説明会」等を開催し、住民に工事の内容、施工時期、環境対策等を説明して、その協力を得るよう努めること。
- (2) 受注者は、地元説明会において「事前調査」を住民に対し、十分説明すること。

#### 2-11 工事現場の管理及び公害の防止

- (1) 受注者は、工事施工中に人畜または公私有の物件に危害及び損害を与えないように万全を期すこと。
- (2) 受注者は、工事の為、付近の建物、又は、構造物に沈下や亀裂等損害が発生する恐れがあると予想されている時、及び、損害が発生した時は、監督員の立会を受けて、受注者の負担において、必要な図面、写真等の資料を作成し、監督員に提出しなければならない。  
又、損害が発生した時は、監督員に関係資料を提出して、対策を協議するとともに、その程度が、第三者の日常生活、又は、営業等に著しい支障を与えているときは、速やかに、応急処置を講じて、その支障を取り除くこと。
- (3) 前項の応急措置は、受注者の負担において行うこと。
- (4) 応急措置を講じた時は、速やかに、監督員にその内容を報告すること。
- (5) 本工事は住宅に近接した箇所で施工するため、受注者は、騒音、振動による影響を検討して、施工方法、施工機械を選定し、更に、作業時間を考慮して施工すること。
- (6) 工事期間中の危険防止を図るため、諸法令などを遵守するとともに、交通誘導員を常駐すること。
- (7) 薬液注入工などを施工するときは、薬液の漏えいにより周辺の井戸及び公共水域に影響を及ぼさないように十分注意すること。

#### 2-12 測量、計測工

- (1) 基準点  
基準点は、世羅町指定のものをを用いる。  
仮基準点は、世羅町指定の基準点より引照検測した後に使用する。
- (2) 疑義  
工事着手後、ただちに測量を実施し、設計図書と現地の関係を照査し著しい相違を発見したときは、監督員に報告すること。
- (3) 細部測量  
受注者は、設計図書に示す管渠布設計画との整合を確認し、設計図との誤差を最小に止めるよう、施工しなければならない。  
又、汚水ますの設置箇所についてインバートの据付け方及びますの深さを検討し、宅内配管との整合性を確認した後施工すること。
- (4) 受注者は、工事期間中、周辺家屋及び周辺道路等の準測量を定期的に行い、異常を認めた場合はただちに監督員と協議を行うこと。

#### 2-13 設計変更

受注者は、工事契約後、設計変更しなければならない事項が発生した時、設計変更部分の施工については、契約変更手続き完了後に着手する事を原則とする。止むを得ない時は、監督員の指示に従い工事打合せ簿による処理を行った後に、

事前着手することができる。又、軽微な変更については、両者協議のうえ、変更しない場合がある。

#### 2-14 井戸枯れ

受注者は施工に当って井戸枯れ調査を行い監督員に資料を提出し、対策を協議すること。

### 第3章 施 工

#### 3-1 総合計画

本計画は、**世羅町 栄町地区**における公共下水道污水管布設工であり、**開削工**にて行う。

受注者は、本工事の特性を充分考慮して施工、工程の総合計画により、設計図書に示す目的構造物を所定の工期内に仕上げること。

##### (1) 道路工事計画

受注者は、本工事計画にあたっては、道路の交通規制を最小限に留めること。交通規制にあたって、その発生源、工事内容、期間、規制の方法等について詳細に計画し、監督員、道路管理者の許可を得ること。

##### (2) 歩道の保持

受注者は、工事計画にあたって、歩道、自転車歩行道を保持すること。保持困難で規制する場合は、適切な誘導により計画すること。

##### (3) 調査

受注者は、設計図書に基づき、工事施工に必要な構造物、地下工作物等の調査を行うこと。

##### (4) 関係諸法則の遵守

受注者は、労働安全衛生法等の諸法令及び酸素欠乏症規則、薬液注入工法における建設工事に関する暫定指針等工事に関する諸法則、通達を遵守し工事の円滑な進捗を図ること。河川区域内の工事箇所については、出水期間を外した工程とすること。また諸法令の運用及び適用については、受注者の負担と責任において行うこと。

#### 3-2 開削工法

##### (1) 管布設位置

管布設の平面位置及び、土被りは、設計図より正確に決定し、必要に応じて地下埋設物、その他の障害物を確認し、監督員と協議のうえ布設位置を決定すること。

##### (2) 舗装取壊し

舗装取壊しは、設計図に基づき必ず切断作業をしてから取壊しを行うこと。

##### (3) 掘削工

- 1) 掘削は、交通、保安設備、土留、排水、その他必要な諸般の準備を整えたうえで着手すること。
- 2) 掘削は、指定された掘削機械又は方法で設計通り正しく掘削を行うこと。
- 3) 一施工区域の長さは、関係官公署、又は監督員の指示によること。
- 4) 掘削断面は、掘削標準図による。

- 5) 施工基面は、人力で整形を行い、入念に仕上げること。
- 6) 埋戻し完了時間が制約される工事箇所の掘削は、制約時間内に埋戻しが完了できる範囲内でなければならない。
- 7) その他の事項については、広島県土木工事共通仕様書によるものとする。

#### (4) 土留工

- 1) 土留材の打ち込みに際しては、地下埋設物について、試堀、その他により十分調査を行うこと。又、地上施設物についても架線、その他に注意すること。
- 2) 土留工は、これに作用する土圧、及び施工期間中における降雨等による条件の悪化に耐え得る材料、構造とすること。
- 3) 打ち込みは、適当な深さまで素掘りした後、通りよく建て込み打ち込むこと。又、矢板の頭はいためないよう、保護すること。
- 4) 矢板の引抜きは、地盤が十分締め固まった後、監督員の指示を受けて行い、矢板の引抜き後の空隙には、ただちに砂を充填し、舗装面に影響が出ないように施工すること。
- 5) 矢板の根入れ部より、湧水、その他によって、土砂の流入がある場合は、土のう、しがら等で、その流出を防止すること。
- 6) 腹起しは、管の吊り降しに支障のないよう長尺物を使用し、又切ばりは、堅固に据付けること。
- 7) 矢板の建て込み、打ち込みの順序、方法、及び矢板の施工法線については、監督員の承認と立会を受けること。
- 8) 矢板の打ち込み途中において傾斜を生じた場合は、これを是正する手段を講じること。
- 9) 簡易土留の建て込みは、バックホーを機材の吊込み等に使用してよいが、労働安全衛生規則第 164 条ただし書を厳守にしなければならない。
- 10) 建て込み簡易土留機材の引抜きは、トラッククレーン等で施工しなければならない。
- 11) バックホーによる吊込みは、建て込み以外の他の工種に使用してはならない。なお、バックホーに取り付けた吊金具等は、建て込み終了後、取外し、現場代理人又は主任技術者（専門技術）が確認すること。ただし、バックホーにクレーン設備のあるものは、この限りでない。
- 12) 機材の引抜きは、締固め厚さ毎に引抜き、パネル部分の埋戻しと締固めを十分に行い、監督員の検査を受けるか、又は写真確認が出来るよう管理しなければならない。
- 13) バックホーによる建て込み作業、又はクレーンによる引抜き作業中は運転者と作業員の連係をよくするため、合図者を置かなければならない。
- 14) 建て込み作業中、バックホーの打撃による建て込み作業は行ってはならない。

#### (5) 埋設物の保護

- 1) 掘削中、埋設物が認められたときは、監督員に報告し、その指示を受け、施工しなければならない。
- 2) 埋設物の防護は、適当な角材、又は、鋼材を桁として吊る他、沈下の恐れがある場合は、鳥居工、その他の方法で支持しなければならない。なお、防護の取外しは、安全を確認した後、行わなければならない。

#### (6) 基礎工

- 1) 管の布設は、設計図に基づき砂基礎で仕上げること。
- 2) 本工事の砂基礎では、建設発生土処分先一覧表に掲載された建設発生土リサイクルプラントが製造した再生砂を使用することとしている。使用する再生

砂が再生コンクリート砂の場合、建設発生土リサイクルプラントから試験結果の提示を受け、提出すること。

(7) 通路の確保

- 1) 道路を横断して施工する場合は、半幅員以上の通路を確保すること。又、分割工事が不可能な場合は覆工をするか、仮橋を設けるなどして通路を確保すること。
- 2) 建物、その他の出入りする場所に近接して工事を行う場合は、沿道住民に迷惑がかからないように安全な通路を設け、出入り口を確保すること。

(8) 埋戻し工

- 1) 埋戻しは、所定の土砂を用い、片埋めにならないように注意しながら厚さ30cm以下ごとに十分締固めること。
- 2) 埋戻しに際しては、管、その他の構造物に損傷を与えたり、管の移動が生じないように注意して行うこと。
- 3) 管の下端、側部、及び埋設物の交差箇所の埋戻し突き固めは、特に入念に行い沈下の生じないようにしなければならない

(9) 発生土処理

- 1) 建設発生土（搬出）（建設発生土リサイクルプラント，建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積））

当該工事により発生する建設発生土は、公の関与する埋立地、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント，建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）のいずれかに搬出するものとする。

また、搬出先として、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント，建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用（単価）は変更しない。

なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント，建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）への搬出が困難となった場合は、発注者と元請業者が協議するものとする。

- 2) 「広島県土砂の適正処理に関する条例」に基づく届出

(1) 土砂の搬出

本工事により発生する建設発生土について、受注者は500 m<sup>3</sup>以上（一時たい積場については500 m<sup>3</sup>/月以上）の土砂を事業区域外へ搬出するときは、「広島県土砂の適正処理に関する条例」（平成16年広島県条例第1号，以下「広島県土砂条例」という。）第2章第8条及び第9条に基づき、土砂の搬出に係る計画を定め、当該土砂の搬出を開始する日から起算して20日前（一時たい積場については、当該計画に係る月の初日の10日前）までに、知事に届け出なければならない。

また、搬出先の施設が広島県土砂条例の規制を受ける場合は、その施設が土砂を適正に処理している資料（広島県土砂条例に係る受理書又は許可書の写し等）を提出すること。

なお、工事発注後に明らかになった止むを得ない事情により、指定した処分地が確保できない場合は、監督員と設計図書の内容に関して協議すること。

- (2) 本工事により発生する建設発生土について、埋立行為（埋立て、盛土、たい積）を行う場合は次のとおりとする。

受注者は、事業区域外において土砂埋立区域の面積が2,000 m<sup>2</sup>以上となる

土砂の埋立行為を行う場合は、土砂埋立区域ごとに知事の許可を受けなければならない。

ただし、次の市町においては、土砂埋立区域の面積が 2,000 m<sup>2</sup>未満であっても土砂埋立行為をする場合は、土砂埋立区域ごとに当該市町で定める次の条例を遵守し適正に処理しなければならない。

- ① 広島市「広島市土砂堆積等規制条例」（平成 16 年広島市条例第 36 号）
- ② 大崎上島町「大崎上島町土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例」（条例第 133 号）

また、受注者は本工事により発生する建設発生土を当該施設へ搬出する場合、関係条例に係る許可書の写しを提出すること。

#### (10) 水替工

- 1) 工事区域内は排水を完全に行えるよう十分な水替え設備を設け、水を滞留させないように注意し、排水は必要に応じ、沈砂ますを設けて土砂を流さないようにすること。
- 2) 水替えは、工事の進行に支障をきたさないよう、必要に応じて昼夜を通じて実施すること。
- 3) 放流にあたっては次の事項に注意しなければならない。
  - a 必要に応じて関係管理者と協議すること。
  - b 水路等に放流する場合は、放流地点が洗掘されないよう適当な処置をすること。
  - c 水替え設備、放流設備を点検すること。
  - d ホースは、放流施設まで連結すること。
  - e その他、排水が現場付近居住者に迷惑とならないこと。

#### (11) 管の取扱い

管の積込み、積降し、及び管渠への搬入に際しては、管の損傷を防止するための必要な措置を講じること。

#### (12) 管の据付け

- 1) 管の据付けに先立ち、充分管体検査を行い、亀裂、曲がり、その他の欠陥のないことを確認すること。
- 2) 管の吊込みにあたって土留用切りばりを外す場合は、必ず立ますを組み、安全に行わなければならない。
- 3) 布設は原則として下流から上流へ向け配管し、受け口は上流へ向けなければならない。
- 4) 管の据付けにあたっては、十分内部を清掃し、水平器、型板、水糸等を使用し、中心線及び高低を確定して移動しないように据付けなければならない。
- 5) 直管では一定以上の角度をとってはならない。
- 6) 配管中、既設埋設物と交差する場合は、原則として 30cm 以上離さなければならない。
- 7) 一日の布設作業完了後は管内に土砂、汚水等が流入しないよう木ぶた等で管末端をふさがなければならない。管内にはぼろ布、工具類等を仮置きしてはならない。

#### (13) 管布設

- 1) 管布設は所定の基礎地形を施した後、管の中心線及び勾配を正確に保ち、胴締を施して、漏水、不陸、偏心等が生じないように注意し、布設すること。
- 2) 管の先端、及びソケット部から埋戻し土が侵入する恐れがある場合は、当該部に仮蓋を設置すること。



3) その他の事項は、広島県土木工事共通仕様書によるものとする

(14) 撤去品

撤去した管、弁せん類、鉄蓋等は、清掃した後、監督員の検査を受け、指定した場所へ運搬しなければならない。

(15) マンホール設置工

- 1) マンホールの構造は、コンクリート製二次製品の斜壁、直壁、底塊及び底板を組み合わせた構造とする。
- 2) マンホール蓋は鋳鉄製とし、仕様については監督員の指示によるものとする。
- 3) マンホール下部には、インバートを設置する。インバートの高さは下流管径の 1/2 とし、幅員は下流管径に合わせ、上部は 10% 以上の傾斜をつけ水切りをよくする。勾配は下流管の勾配によるものとする。
- 4) 調整ブロックは、敷モルタルで口輪の位置を路面高及び路面勾配に合せて据付け、傾斜の間にモルタルを十分充填して仕上げるものとする。
- 5) 各ブロックの据付けにあたっては空隙を残さないよう十分注意し、防水モルタル等を使用し漏水を防止すること。
- 6) マンホール基礎は、設計図に基づき、強固に構築し、マンホールの沈下等を防ぐこと。

(16) 取付管据付工

- 1) 取付管は、本管施工時にまず位置を確定し、取出部を一部施工して埋戻した後、道路の片側ずつ施工するものとする。
- 2) 取付管は道路に直角に施工するものとする。（支管部分・ます引区間は除く）
- 3) 取付管のますに接続する部分が浅く舗装路盤の内に飛出す場合は、コンクリート防護を行うものとする。

(17) 汚水枳設置

- 1) 汚水枳は、設計図に基づき、原則として民地に設置すること。もし公道に設置する場合は、監督員と協議すること。
- 2) 汚水枳は、塩化ビニル製二次製品とし、点検の容易なように配置するものとする。
- 3) 汚水枳は、宅内配管との整合性を確認した後、仕様部材を選定すること。
- 4) 汚水枳蓋は、塩化ビニル製もしくは鋳鉄製とし、雨水等が流入しない構造とすること。

(18) 配管技能者

配管作業（継手接合を含む）に従事する技能者は、豊富な実務経験と知識を有し、熟練した者でなければならない

(19) 付帯工

1) 路面復旧工

路面復旧は、設計図に示すとおり、路盤については掘削部分、基層・表層については掘削影響部分を加算した範囲で仕上げ復旧すること。

2) 付帯工事

側溝、道路区画線、標識その他復旧については、原型復旧とする。

(20) 通水準備工

通水に先立ち、管内は十分清掃するとともに残存物がないよう確認しなければならない。

(21) 契約時特約事項

- 1) 工事竣工後の引取りに当たっては漏水は認めないものとする。
- 2) 検査時においては、検査員が必要と認める検査資材は、受注者が用意すること。
- 3) 周辺への２次公害の発生防止には、細心の注意を払うこと。
- 4) 全ての仮設は、任意仮設とするが施工計画書により監督員の承諾を得たのち施工をすること。

(22) 安全対策

- 1) 下水道工事の作業期間、交通誘導員を２（人／日）を配置すること。  
なお、交通誘導員の配置を考慮している作業は次のとおり。

本管布設に係る掘削工・土留工（建込み・引抜）・埋戻工・マンホール工  
付帯工（舗装仮復旧工・舗装本復旧工）